



名古屋市のアレルギー食を探す

仙台、石巻で各団体と連携体制を模索する
特別食を理解して支援をしないと無駄になる
名古屋市のアレルギー食が一般支援品に紛れ行方不明に

○ 宮城県腎臓病患者連絡協議会の事務局を訪ねました ○

透析が不足なのか頭が浮腫んでい
る。透析患者が透析患者をサポート
するのは大変難しい。



高橋事務局長(中)、邊見事務局次長(右)

多賀城市の愛腎協事務局を尋ねました。高橋事務局長、邊見事務局次長とお会いしました。多賀城市では腎クリニックが水没して仙台にピストン輸送で透析を受ける。しかし、燃料が不足して輸送に困ること。事務局のスタッフが移送のボランティアをしているが、同じ透析患者であるので体にかかなりの負担がかかっているとのこと。気仙沼の透析患者は北海道に移送されて透析治療を受けていることなど、透析患者の厳しい現実を伺いました。

今後は県北、南に物資を運べないとのことなので、地元ボランティア、関西から入る学生ボランティア、各地の災害ボランティアと連携して輸送できる体制づくりを模索します。

○ 消防大学校で「アレルギー対応アルファーマ」7000食を探す ○

名古屋市がアレルギー対応用として備蓄していたアルファーマ7700食が仙台に送られました。しかし、一般食で送られたのでどこかに紛れてしまいました。急遽備蓄基地の宮城消防大学校に捜しに行きましたが、すでにアルファーマは全部避難所に送られていました。どこの避難所に送られたかさえも全くわかりません。

山のように送られてくる災害支援品を現場で区別することは大変難しいと思います。透析・アレルギー用の支援品は必要性を理解した者が直接届けなければ届きません。

今後の食事制限者災害支援の教訓となる出来事でした。



広い体育館に支援物資が山積、細かい仕分けは無理。支援物資の送り方、送り先が重要になります。



陸前高田市の高田病院は被災し、公民館が「高田病院仮診療所」に。保健師と相談し掲示板にもポスターを貼り診療に来る方々に広くアレルギー支援があることを周知します。



豊永(左)の大学時代の友人桑原英文さん。災害ボランティア活動支援会議の幹事でボランティアコーディネーター。3年前の中越沖地震の避難所で偶然に会って以来の再会。



川村大輔さん(右2人目)は、埼玉からの参加。栗木さんはボランティアドライバー2名に依頼して途中乗り次いで、名古屋から盛岡に乗り込む。



早朝、仙台市在住のエコ・ライス新潟会員の中川さんにお米と被災見舞いを渡す。まだ、水道が止まっていて不自由な生活をされていました。

【 問合せ先：(有)エコ・ライス新潟 豊永有(トヨカユキ) 】

〒954-0181 新潟県長岡市脇川新田町字前島 970-100



TEL 0258-66-0070 mobile 090-6458-5535

e-mail eco-net@nekonet.ne.jp